

討論

*1

自由クラブ

議第1号平成24年度一般会計予算について、7・29豪雨災害の復旧・復興を最優先の課題に据えられたことに力強く感じる。481億3500万円で前年度比69億1500万円12・6%減だが投資的減で新市建設計画の取り組みが順調に進んでいる表れと思う。健全財政の堅持に配慮された予算編成と考える。

議第9号平成23年度一般会計補正予算、第一中学校区小中一体校建設事業について、地域住民の心配の点は否定しないが議会で過半数をもって建設すべしとの団意思決定を行い、工事が進んでいる。解決すべき諸課題にチェック機能を働かせるべきだ。

議第16号三条市条例の一部改正について、東日本大震災復興基本法の臨時措置で均等割を500円引き上げるものだ。三条市が実施する施策の恩恵を等しく享受することを考えれば理解できる。

議第17号三条市国民健康保険条例の一部改正について、保険財政の健全化を図るため5年以内の赤字解消を始め、1億3000万円を法定外繰り入れし11%引き上げるものだ。10年にすれば税率は下がるが先の世代に負担を背負わせることになる。以上各議案に賛成する。

新政クラブ

請願第21号自然エネルギー政策への転換を求める請願は採択すべきもの。エネルギー政策の議論は原子力問題の歴史から考えるべきこと。67年前の広島から現在進行中の福島まで見通すことが必要になる。冷温停止とは程遠い現状で既存原発の再稼働が語られることに大きな問題がある。1年前を境にして市民の意識も価値観も大きく変化した。国家の舵取りに地方議会から意思表示を挙げる意義は大きい。福島はもちろん県内でも全国でも同趣旨の意見書採択が続いている。県内の弁護団による原発運転差し止め請求訴訟も予定され、ついに大阪市が関西電力の全原発停止を求める判断を下している。情勢は大きく動きだし、好むと好まざるとに関わらず、脱原発に進む中で請願採択の判断が重要になっていく。請願採択の基準が政治や経済など既成の物差しのみで良いか。福島の現実は基盤となるべき第1次産業が壊滅する深刻な状態。お金より命が大切という基準が求められている。ドイツ国民が国家意思として脱原発を選択した民主主義の見事な成熟の過程に学ばなければならない。

日本共産党議員団

平成24年度三条市一般会計予算について第一中学校区小中一体校建設は議会で可決済みであるが、一貫教育の名で中学校を一体化することは多くの弊害が予測される。また、教育的にも検証されていないこうした教育を進めるべきではない。商工会議所振興事業補助金2500万円は、商工行政を商工会議所だけに担わせることに反対する。県同和教育研究協議会負担金は、すでに国の同和教育特別対策事業は終了しており逆差別化につながりかねないため反対する。

市条例の一部改正について、緊急防災減災事業の地方負担分の財源を、個人住民税均等割で充当するもので、低所得者には加重負担となることから反対する。

平成24年度国保事業特別会計予算は、昨年の引き上げで滞納者は1517人。さらに11%の値上げでは滞納者を増幅させ赤字が拡大する懸念があることから反対する。他、後期高齢者医療特別会計予算、介護保険事業特別会計予算、一般会計補正予算、国保条例の一部改正、介護保険条例の一部改正は、被保険者負担が増すため反対する。請願6件について採択すべきと考え賛成する。



市政を問う

一

般

質

問

栄スマートインターチェンジについて

質問 栄スマートインターチェンジの工期が迫っている。今冬の豪雪で工事に遅れはあるか。国道8号米拡幅等、アクセス路の整備はどのようになるのか。

答弁 当初予定の24年夏ごろの供用開始を目指している。4月には地区協議会を開催して決定したい。国道8号の4車線化は、引き続き関係機関に働きかけをやっていく。

子育て支援について

質問 子育て支援センターは市内の8カ所に設置してあるが、嵐北地区は施設が不足しているとの声が多くある。裏館保育所と旭保育所の統合が26年度に計画されている。統合に併せ設置すべきか。

答弁 以前より要望が多くあることは承知している。統合に併せ、その中で具体的な検討をした。

農業問題について

質問 農業活性化プランの検証はどうなっているのか。23年度は区切りだが24年度以降の活性化をどう計画なのか。

答弁 6つの重点施策を中心に進めてきた。地産地消推進店の登録など成果も着実に上がってきている。今後は、夢の持てる新たなプランの策定をしていきたい。

パルム1跡地について

質問 市長は昨年の12月定例会で、昭栄開発㈱の社長として訴えているが、「所有権移転手続きをしてほしい」と当時の地権者の皆様、昭栄開発㈱の株主の皆様、関係各位にご迷惑をかけるまいと、一日も早く本件の整理をつけるためやむを得ず訴訟に踏み込んだ。また、訴訟しかんにかかわらず基本的な方向感を示した中で、もしこの訴訟がないような状況であれば当初の予定通り粛々と進んでいたところである。と答弁している。しかしながら、

答弁とは裏腹に日も早い解決どころか、鈴木さんに対する対応を誤ったばかりに、結果的に地権者、株主、関係各位に多大な迷惑が生じていることは紛れもない事実である。訴訟に打って出るといつかは最後の最後の手段であり、鈴木さんに対して根気よく説得する努力がなされていればこのような事態にならずに済んだはずである。市長はどのようにお考えなのか。

答弁 係争中の事案でこの場で答弁するようなものではない。これまでの答弁、手続きについて、私は全く誤りがあつたとは思っていない。

震災がれきの受け入れについて

質問 全国で「反受け入れ」の動きがある中で、手を挙げた経緯は。

答弁 平成16年の7・13豪雨災害で

出た(わが市の)災害廃棄物の3分の2を山形県にある最終処分場で埋立て処理をしていただいた。その際に三条市清掃センターで焼却処理した可燃性廃棄物の量から、新ごみ処理施設建設にあたって三条市の施設規模に約10トンの広域災害廃棄物の受け入れを想定した保有率を確保し、建設を進めている。昨年の7・29豪雨災害でも全国から温かいご支援をいただいた中で、被害を受けた自治体に協力していただくことは当然である。



復興を妨げろわず高く積み上げられたがれきの山(石巻市)

公共施設のペレットストーブの安全性について

質問 地球温暖化防止や、エネルギーの地産地消などの観点から、三条市は公民館や学校にペレットストーブを導入しているが、安全対策は大丈夫か。財団法人燃焼機器検査協会はペレットストーブについて、耐震性能、排気温度



栄スマートインターチェンジ